

金属と樹脂の接合技術：大成プラス（株）＜東京都、従業員43人＞

- 金属と樹脂を、接着剤に比べ非常に高い強度で接合させる技術を開発。しかしながら、その性能を客観的に証明できず、新市場開拓の壁に直面。
- 自社接合技術の強度の評価方法を、大手樹脂メーカーとともに国際標準提案し、本年8月に国際標準(ISO)の発行が実現。
- 国際標準を機に、国内外での認知度が大きく向上。これまで進出できていない、海外市場を含めた自動車や航空機分野への本格参入を展開中。



(ソニー製のプロジェクトの筐体の実装)

ロボット安全操作スイッチ：IDEC（株）＜大阪府、従業員783名＞

- 同社は、過去に、産業用スイッチの国際標準化に参加せず、市場を喪失するという経験をし、国際標準化の重要性を認識。以降、開発・標準・知財の一体体制で標準化活動を推進。
- 同社が開発した、予期せぬ危険事態が発生した際に、手を強く握る人間の反射的な動作で機械を停止させる、ロボットの安全操作スイッチについて、自社技術を基に国際標準化(IEC)を実現。
- 国際標準化により世界市場で広く受け入れられ、世界シェア90%を達成。



中堅・中小企業の標準化活用事例

高機能性塗料による表面処理：（株）竹中製作所＜大阪府、従業員155人＞

- 同社は、独自の表面処理技術により開発した錆びないネジが世界シェア7割を誇るGNT企業。
- しかしながら同社が新たに開発した耐久性、耐食性等に優れる高機能性塗料による金属の表面処理技術については、その性能を客観的に示せず、市場展開が困難な状況にあったため、当該塗料による金属の表面性能に関する標準化に着手。
- 標準化により表面性能を見える化し、海外市場を含めた社会インフラ、建築用資材等の分野での需要発掘を狙う。



自動車用緊急脱出ツール：（株）ワイピーステム＜埼玉県、従業員25人＞

- 同社は、交通事故などで自動車に閉じ込められた時に使用されるガラス破碎・シートベルト切断ツールを国内外で製造・販売するGNT企業。
- しかしながら、当該ツールについては、適切な性能を発揮しない製品も市場に流通しており、ユーザからの信頼が十分に得られない状況にあったため、ツールの破碎・切断性能に関する標準化に着手。
- 標準化により破碎・切断性能を見える化し、海外市場を含め、適切な性能を発揮しない製品との差別化、適正な市場形成・拡大を狙う。

